

救急救命学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1 年	41	疾病救急医学Ⅳ
1 年	45	外傷学Ⅱ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-04				
	●	●	●	●						
科目名	疾病救急医学Ⅳ				単位 認定者	横山 亜矢		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	救急救命の現場で遭遇することの多い特徴的な疾患について学修する。小児の救急疾患は、基本的には成人の場合と処置は同様だが、訴えが不明瞭であるために重症度の判断や重症化の予知が困難等の特徴がある。小児の年齢によって好発する疾患があり、同じ疾患でも低年齢ほど重症化しやすいことも特徴といえる。高齢者の救急疾患には、加齢による身体機能や精神機能の変化を背景とした疾患であることが多い。母体の救急疾患には、母体と胎児・新生児の観察・処置等を同時に行うという特殊性があり、分娩介助が必要となる場合もある。精神障害には、それぞれの精神症状にあわせた適切な対応が求められ、自傷他害の恐れがあるケースもある。「疾病救急医学Ⅳ」では、小児に特有な疾患、高齢者に特有な疾患、妊娠・分娩と救急疾患、精神障害について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。									
到達目標	各項目のそれぞれの傷病者に対しての知識を深めるとともに、必要な対応ができるようになる。									
学修者への期待等	テキストで予習をすること。授業内で小テストを実施する。授業とシミュレーションと合わせて理解を深めてほしい。様々な疾患を持つ傷病者に寄り添い、適切な対応ができるようになってほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	感染症① (総論)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。				
2	感染症② (敗血症、結核、インフルエンザ、食中毒)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。				
3	感染症③ (輸入感染症、発疹性感染症)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。				
4	感染症④ (性感染症)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。				
5	感染症⑤ (皮膚軟部組織、その他の感染症)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。				
6	小児に特有な疾患① ・実技も含む (総論)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。				
7	小児に特有な疾患② ・実技も含む (観察と判断)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。				
8	小児に特有な疾患③ (神経系・呼吸系)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。				
9	小児に特有な疾患④ (消化系・感染症)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。				
10	小児に特有な疾患⑤ (その他の疾患)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。				

回	授業計画	準備学修
11	高齢者に特有な疾患① (加齢による変化)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること（概ね1時間）。
12	高齢者に特有な疾患② (高齢者疾患の特徴、傷病者への対応)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること（概ね1時間）。
13	高齢者に特有な疾患③ (認知症、せん妄、脱水)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること（概ね1時間）。
14	高齢者に特有な疾患④ (骨粗鬆症、褥瘡、廃用症候群)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること（概ね1時間）。
15	妊娠・分娩と救急疾患① (正常妊娠、異常妊娠と妊娠中の異常)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 14妊娠・分娩と救急医療で予習・復習すること（概ね1時間）。
16	妊娠・分娩と救急疾患② ・実技も含む (正常分娩、異常分娩)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 14妊娠・分娩と救急医療で予習・復習すること（概ね1時間）。
17	妊娠・分娩と救急疾患③ (観察と処置) 【遠隔授業】	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 14妊娠・分娩と救急医療で予習・復習すること（概ね1時間）。
18	精神障害① 【遠隔授業】 (総論)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 15精神障害で予習・復習すること（概ね1時間）。
19	精神障害② (主な精神障害)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 15精神障害で予習・復習すること（概ね1時間）。
20	精神障害③ 【遠隔授業】 (向精神薬の主な副作用)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 15精神障害で予習・復習すること（概ね1時間）。
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版	
参考文献		
備考	授業はすべて対面授業とするが遠隔授業に切り替える可能性もある。小テストについては授業内で解説。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士として実務経験を活用して、各領域の特徴や疾患について詳しく説明する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング EM-2-TEM-02				
	●	●		●						
科目名	外傷学Ⅱ				単位 認定者	横山 亜矢		評価の 方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内 課題等	40 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		20 回	
授業の概要	外傷とは、広義では、機械的、物理的、化学的な外力により生じた組織・臓器の損傷のことをいう。「外傷学Ⅱ」では、骨盤外傷、四肢外傷のほか、小児・高齢者・妊婦の外傷や、熱傷、化学損傷、電撃傷・雷撃傷、縊頸・絞頸、刺咬症等の特殊な外傷について、それぞれの受傷機転、発生機序、病態、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、外傷に対応する基礎知識を身につける。									
到達目標	防ぎ得た外傷死を減らすための外傷に対応する知識を深め、説明できる。外傷学Ⅱで学修した内容をシミュレーション等で実践することができる。									
学修者への 期待等	テキストで予習・復習を行うこと。シミュレーション等で実践することができる。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、重要な項目のひとつだという事を念頭に置いて授業に臨んでほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	骨盤外傷① (疫学、受傷機転、病態)									
2	骨盤外傷② (主な外傷)									
3	骨盤外傷③ (現場活動)									
4	四肢外傷① (疫学、病態)									
5	四肢外傷② (主な外傷)									
6	四肢外傷③ (現場活動)									
7	小児の外傷 (特徴、主な外傷)									
8	高齢者の外傷 (特徴、主な外傷)									
9	妊婦の外傷									
10	骨盤外傷～妊婦の外傷まとめ (小テスト)					テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章外傷救急医学で復習すること（概ね1時間）。【事後】レポート提出（概ね1時間）詳細は授業で説明。				

回	授業計画	準備学修
11	熱傷① (疫学と受傷機転、病態)	
12	熱傷② (注意を要する熱傷、評価)	
13	熱傷③ (現場活動)	
14	化学損傷① (各種の化学損傷)	
15	化学損傷② (観察、処置)	
16	電撃症・雷撃症	
17	縊頸・絞頸	
18	刺咬症(傷)① 【遠隔：オンライン】 (哺乳類、爬虫類)	
19	刺咬症(傷)② (節足動物、海洋生物)	
20	熱傷～刺咬症(傷)まとめ (小テスト)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章外傷救急医学で復習すること(概ね1時間)。【事後】レポート提出(概ね1時間)詳細は授業で説明。
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック」一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版	
参考文献		
備考	授業はすべて対面授業とするが遠隔(オンライン)に切り替える可能性もある。小テストについては採点后誤った回答に関して、次回までのレポートとする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
救急救命士として実務経験を活用し、外傷部位ごとに解説するとともに系統的な理解ができるようにする。